

## 令和元年度 玉野市工業振興会議 概要

- 1 日 時 令和2年2月14日(金)14:00～16:10
- 2 場 所 産業振興ビル 3F 技術研修室
- 3 出席者 別紙名簿のとおり(資料添付)
- 4 概 要 以下のとおり (進行 藤原参事)

- 1 開会
- 2 山下部長 挨拶
- 3 委員紹介
- 4 会長選出(岡山大学研究推進機構 准教授 正岡 英治)
- 5 議事

(1)「玉野市の工業振興に関する基本方針」に対する取組状況及び、令和2年度産業(工業)事業概要について

【商工会議所 実井相談所長内容説明】

【一般財団法人 玉野産業振興公社 柴田係長内容説明】

【商工観光課 大出係長内容説明】

(正岡会長) 貿易証明について、自分で証明できるようになった。貿易証明の発行件数は堅調に推移しているようだが、何か変化があるのか。自己証明の流れになっているのではないかと思うが、傾向などあれば。

(会議所) 商工会議所の規模によって、取り扱う企業が決まっている。貿易証明は日本商工会議所がネット申請を進めてるが、スタートが遅れている状況。

(正岡会長) 最終製品を作らないと貿易証明は取れない。最終製品が玉野で作られているのだと驚いた。中間製品として納め、代理企業が東京で貿易証明を出してもらうパターンが多いと思っていた。外需を捉えて玉野の発展になっていることが分かった。

(吉川委員) マリン産業フェアについて、出展社が20前後だが、もっと増やすことはできないか、場所の問題があるのか。

(商工観光課) 市から玉野地区雇用開発協会に事業の実施を依頼している。市内の高校生だけでなく、市外の高校生や先生も招いて開催している。例年産業振興ビル3階の部屋を全て活用してるので、場所が限られている面はあるが、宇野駅から近く、高校生にとっては参加しやすい場所なので、変更は難しい。

(宮原委員) 高校生の就職のためを考えると、参加企業が多いほうが生徒の希望に叶うかもしれない。現在雇用開発協会には70数社あるが、夏休みになる前に、玉野の産業の紹介と生徒への意識付けを兼ね、毎年20社程度が参加してくれる。各企業のその年の求人活動などの状況もあるし、場所の問題もある。当日は企業とのやりとりだけではなく、生徒をバスに乗せて企業の見学も行っているので、予算的にも考慮し、今の規模に落ち着いている。

(正岡会長) 参加学校数が23はすごいですね。

- (商工観光課) 県内の他の自治体から聞いても、ここまで参加校の数が多いのは珍しいようだ。来てくれる生徒が、毎年100名を超えている。高校生に直接発信出来るチャンスになっている。
- (正岡会長) 企業からも評価が高いのでは。
- (商工観光課) 例年雇用開発協会で、やり方や配置、会社の方の対応等を検討している。事前に高校の先生を訪問し、内容を説明するなどPRをしていることが、長く続くことに繋がっているのでは。
- (山下委員) 職人塾について、平成30年度から人数が減っているが、なぜか。
- (公社) 高校生のインターンシップコースと溶接の資格取得を目指す実習研修のコースの参加者が、例年20名程度いるが、平成30年度は6名であった。平成30年は溶接に携わる新規採用が少なかったのではないかと考えている。  
令和2年度も低い水準だが、高校生のインターンシップコースの申込み人数が最少実施人数に届かなかったため、中止した。また、講師の負担を軽減するために、溶接の研修の回数を減らし、募集人数も減らしたことが減少の要因となっている。
- (山下委員) 専門家派遣について、実績がない要因は。
- (公社) 平成29年度あたりから、岡山県産業振興財団が無料で専門家派遣を実施している。有償での対応が非常にレアケースのため、件数がなくなってきている。広報はしているが、申請がなかった。
- (宮原委員) 企業にとって、研修は選択肢が多い。社員教育は社内でも行うし、技術センターや産業振興財団の関係でも、社員教育に対するメニューは世の中にかくさんある。企業がどこを選ぶかによる。難しい部分はあるだろう。
- (正岡会長) 派遣事業に関しては、中小企業庁が事業を平成28、29年度から実施している。岡山の支援拠点は全国的にも頑張っているんで、そちらに行ってしまうのかもしれない。ただ地道な取組は、企業にとって、何かあったときに助けてくれる仲間がいるんだと思え、非常に大切なのでは。技能研修やコンサルは、国も県も市もやっている。企業側も選んでいるだろう。  
高校生のインターンシップは好評なのでは。
- (商工観光課) 現在3年目になり、少しずつ慣れてきたのではという実感がある。高校生からは、行ってよかった、社会の見る目が変わった、という職業の選択の前に働くとは何かという考えの一助になってきているようだ。市立高校と市での連携やサポートが出来つつある。今は企業の協力で成り立っている。
- (正岡会長) こういった取組は、行政単位で行うと分かってもらえる。実際に学生を受け入れてみてどうか。市としても、これからも取り組んで行きたいか。
- (商工観光課) これからも続けていきたい。特に、来年は商工高校の機会科が出来て3年経ち、初めて卒業生が出る。彼らもインターンシップに参加したが、もらった意見を踏まえながら次に繋げていきたい。また、マリン玉野産業フェアでも高校生の地元就職に繋げていきたい。

- (正岡会長) 保護者にも地元の企業を理解してもらうための取組は考えているか。
- (商工観光課) 新規事業である「たまの高校生地元就職促進実証研究事業」の中で、保護者を交えて事業の趣旨や市内の事業所の紹介をする場を設けるよう考えている。
- (正岡会長) 保護者の理解が一番だと思う。学校の先生から聞いた話だが、地元の中小企業メーカーに決まっていた学生が、保護者に話をした後に「先生、違う企業にしたい」と言ってきた。そして結局、地元企業ではなく東京の企業に行った、ということがあったそうだ。
- 新入社員の受け入れも大切だが、事業承継も大切。相談を受けているか。
- (会議所) 相談は工業関係からは少なく、商業やサービス業が多い。小売りや商業、サービス業の場合は事業規模がそれほど大きくない。そのため、自分で専門家を派遣するスキームがないのではないか。工業はそれなりの規模が多いので、自身で専門家に相談しているのでは。
- (正岡会長) 全国的に、事業承継が大事という流れになっている。技術を持っていても、継ぐ人がいないから廃業してしまうこともあるだろうし、最近ではクラウドファンディングや外資でという場合もあるかもしれない。
- 金融支援について、相談件数が増加してないようだ。日本政策金融公庫で関係するのは、国民生活関係か。
- (会議所) 相談は様々なケースがあるが、日本政策金融公庫の中で一番関係があるのは、国民生活系。
- また、今年度中に新しい経営発達支援策計画を策定する。小規模事業者経営発達支援資金が民間の銀行との協調融資となっている。、何社か利用しそうだったが、結局申請に至らなかった。
- (正岡会長) 宇高航路が休止になってしまったが、その関連での相談はどうか。
- (会議所) 心配していたが、会議所への相談は今のところない。
- (正岡会長) 経営面まで影響はしていない状況か。
- (大熊委員) 宇高航路の休止について、困っている企業は多々あると思う。なんとか自分でやっつけようというところが多いのではないだろうか。
- 経営基盤強化については、工業関係は会社の規模があるので自分たちで努力するし、銀行もあるのであまり制度は利用しない。商業関係だと短期で仕入れ・販売をするが、工業は長い設備投資なので違いがあるのでは。市から融資は必要だと思うが、玉原地区としてはあまり使わない。
- 人材に関してはどこも欲しい。高校生だけでなく、大学生やUターンに対しても積極的に人を入れて欲しい。玉野市在住か否かでなく、本当に人が欲しい企業が多い。企業が良くなれば玉野市は良くなると思っている。人材育成について、外国人もいるので、外国人受け入れの補助とかはないのか。新しい人材確保の制度があればいいと思う。
- (商工観光課) 県と連携して、東京23区在住の人を対象に、玉野市へ移住・就業した人に一部支援金を出す制度をスタートしている。専用のホームページに求人情報を

掲載し、就職が決まったら支援金を払う。市としては広報活動の支援のみであるが、来年度も継続して行う。市独自のものは、財政の予算確保の都合上、メニューを増やしていくのは難しいが、県が行っているものについては、今まで以上に情報を提供し、活用してもらえよう努力したい。

(正岡会長) この地域の特徴、風光明媚でいい土地だと思う。その中で瀬戸内国際芸術祭があり、今日もフランス人が宇野駅で降りて直島へ向かうの見た。日本人も来ているし、コロナウイルスがなければ中国人も多く来ていただろう。玉野の魅力の創出、外へのPRも出来れば良いのでは。

(商工観光課) 商工観光課では、観光も担当している。芸術祭がない年も直島が世界中のアートの聖地として非常に有名なので、多くの人 coming。それを起点とし、玉野の特長である、海・船・港、プラス、アートというところで、市の総合計画の中で生涯活躍のまちとしての計画をたて、交流人口や関係人口の増加、そして移住定住の人口を増やしたいと考えている。いい地域で生活するというのは大切で、移住のきっかけにもなる。働く場所もあり、住んでも素晴らしい街というところを発信していきたい。

(正岡会長) 就職氷河期である40代前後の人の雇用を増やそうという動きがある。国の補助等出れば、魅力ある地域というのをPRしながら、活用してほしい。

(磯野委員) 玉野市で仕事をしたい人たちが、玉野に住もうとしても、給料がどうか。例えば新卒で総支給額が25万だとしても、手取りが20万くらいになる。その中から5万円も家賃がかかるとなれば、玉野の人が親元から来るのであれば問題ないだろうが、就職が決まった場合に何か補助があれば、我々としても呼び込みやすい。中小零細企業では多くの負担は難しい。企業も負担し、市も負担するということになれば、玉野に行こうとなるのでは。

(商工観光課) 政策財政部で、何年かであるが住民税相当分の給付する取組を検討中である。確か3年間か。

(磯野委員) 手取りが下がらない、ということはメリットがある。新人に2年目はこうなると説明しても、減るものは減る。3年やってくれたら大分違うのではと思う。

(商工観光課) これからの制度、決まった制度について、いかに繋いでいくかが重要。移住相談会でも玉野の魅力発信をしていく。市の関係機関も総合的に繋がるようにしていきたい。

(正岡会長) もし企業側も手続きが必要となれば、できるだけ企業側の手続きは簡素化すれば良いのでは。

(中谷委員) 人材確保について、外国人が非常に増えてきている。現在市内にいる外国人の実習生や労働者は何人くらいいるか、データはあるか。

(商工観光課) データは特にない。

(中谷委員) 外国人の受け入れについて、移住と同じようにインフラがあっても良いのではないか。労働人口が減少している中、外国人を受け入れ仕事を一緒にし、商業工業を発展させる事が大切なのでは。

玉野市の工業では、自分でデザインや設計をして部品を作っていくという会社が少ない。三井 E&S の協力会社で、三井 E&S からの図面で仕事をする企業は多い。自分の設計で部品を作る企業が増えれば、非常に競争力が上がり、工業の街になるのではないか。新たな産業の創出するような企業の誘致や自分で部品を作る取組になってくれば良いのではと感じている。

(正岡会長) 三井 E&S の OB の方から指導してもらえば良いのかもしれない。

(吉川委員) 自会社で開発をしている会社は、次へ展開する時の選択肢が多い。そういう会社は、倉敷より岡山が多い印象。倉敷では自動車会社からもらった図面での仕事が多く、職人はいるが、自分で作ってみたらと言っても難しいのかもしれない。岡山だと色んなところから仕事を引っ張ってきているからか、選択肢が多く、また、思い切った材料や変わった材料でやっていると自信を持っている会社も多い。

(宮原委員) 三井造船が玉野に出来てからものづくりが進んだという土地柄があるのでは。多く関わるのは三井 E&S 関係の商品。玉野の企業は、図面があれば抜群の力を発揮する企業が揃っているが、白紙に自分で書いてというのは、不得手である。ただ、図面さえもらえれば、どんなものであっても作り上げる。そういう技術が 100 年かけて培われた土地。こういうイメージで何か作れ、というものには弱く、今後芽生えてくれば良い産業の状態になるのだろうが、なかなか難しい。どうするかはこれから考えていかないといけない。

(中谷委員) 風土だが、これからはそれだけじゃ生きていけない。

(正岡会長) 一般的に大企業が強いところは、そういう傾向がある。依頼されたことが全てできるというのは、すごいこと。そのすごいことを今やっているということ誇りに思い、次の 100 年に向けて、ということもあり得る。市や会議所、団体からも支援し、玉野が持続的な発展ができるのではと思う。経済自体がグローバルになってきていて、我々がどこで戦うのかという視点がある。付加価値をつけていかないといけない。関税の障壁がなくなってきたし、AI や IOT を活用したものも出てくる。他と比べて勝る部分を積み上げていかないといけない。

## 6 その他

(商工観光課) 最近の業界の状況など、教えていただきたい。

(大熊委員) 玉原地区は下請け企業が多く、良く働く会社ばかりである。三井 E&S の造船関係が多少持ち直してきており、全体的にはそこそこ良いという状況。今一番心配なのが、今後親企業がどのようになっていくのか。

(宮原委員) 造船業界は、韓国中国との競争で、両国の大手が一社に集中させる中、日本の中堅の造船所が一社ずつ競争している図式になってきている。国際的に勝てないので、大手と中堅造船所が合併や提携の動きを始めたのが昨年の後半。先行きに不安を抱えながら日々やっているのが現在の状況。三井 E&S の関係者から、協力して頑張りたいと話があった。造船業界が抱えている大きな問題であるが、長く続かず、落ち着いてくるのではと見ている。その中で、玉野の

企業が元気で頑張っている姿があれば、これから先色んな展望が開けてくるのではないかと。そのために、そこで輝けるように頑張ろうと社員には言っている。新しい造船業界がどうなるか分からないが、新しい玉野の姿になるのではないかと。期待しましょう、良くなると思います。

(磯野委員) 行政の仕事もしているが、最近市内業者を育成しようという姿勢が抜けているように感じる。頭を捻って作ろうとやっていたものを外部にアウトソーシングしてしまう、簡単に済まそうとしてしまう。市の方向性が、大手企業に任せたらできるじゃないか、となっているのではないかと。市内の業者、玉野の人間とみんなでやっぺいこうという気持ちがないと。どこか大手が来てものを作り、それでもものができるというのは、どこか違うのではないかと。

災害時は地元の業者が動かなければならない。動ける力を地元の業者に蓄えさせておかないと、将来、困った時に動けなくなる。

最高の品質の品物を施主が望んだタイミングで出す、それが大切だと学んで育ってきたが、今は市民の生命及び財産を守る一端を担っているというプライドを維持しにくくなっている。市内業者の働く場も提供して欲しい。技術の伝承をしましようと言っても、目の前の作業を大手がやるのであれば、地元の技術者は育たない。新しいやり方はしっかり考え、取り入れる取り入れないを検討してほしい。バランスを考えてもらえれば、もっと良くなるのではないかと。

実際にどういうのが良いかはみんなで考える、こういう機会がスタートになって良いと思っている。75年かけて作ってきたものが綻び始めている、復活させるには同じくらいの時間が必要なのかもしれない。子や孫の世代にも、インフラがちゃんとあるんだという玉野を維持していくためには、どうすれば良いか考えてくれればありがたい。

(中谷委員) 今年度決算が終わり、来年度がポイント。三井 E&S は玉野については仕事をしっかりもっている。一般商船は赤字だが、官公庁船の受注があり相応の利益がある。ディーゼルエンジンは利益が大きいわけではないが、競争力があるので、機械部分はディーゼルを中心にやっている。三井 E&S 造船は今年度も苦しく、船の受注を見合わせている部分があるが、今の受注量で仕事量は確保できている。MES ファシリティーズについては、この地域の方々にサービスを提供しているが、業績としては悪くない。

人口を増やすには、魅力ある玉野、魅力ある都市にしないといけない。今は少し寂れている。ライフラインを磨いて、出来ることと出来ないことはあるが、外からみて魅力がある都市になれば良い。住むには風光明媚でとても良いところなので、人口が増えるのでは。

(商工観光課) みなさまからの意見を踏まえ、市として次の世代に残していけるような市になるよう努力していくので、協力の程よろしく願いいたします。